

## 2005年10月期業績について

### 1. 業績報告

当連結会計年度におけるわが国経済は、原油や鋼材をはじめとする原材料の急騰等、不安要因はあるものの、自動車関連業界など輸出の拡大や企業収益の改善、設備投資の増加を背景に、景気は回復基調で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、生産効率の向上を図るなど原価低減に積極的に取り組むとともに、新製品の開発や高品質の製品作りに努め、市場競争力を強化してまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は15,396百万円（前期比11.9%増）となりました。また利益面では、経常利益1,641百万円（前期比17.2%増）、当期純利益1,028百万円（前期比24.6%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 猟銃事業

猟銃事業につきましては、主力の米国市場は堅調に推移しております。平成17年4月に発生した部品調達先での火災により、一部減産を余儀なくされた機種があったものの、付加価値の高い上下二連銃の増産等によりこれをカバーしてまいりました。その結果、売上高は7,796百万円（前期比11.2%増）、営業利益762百万円（前期比8.4%増）となりました。

#### 工作機械事業

深孔加工用ガンドリルマシンを主力とする工作機械事業は、引き続き自動車・金型関連業界を中心とする設備投資が順調に推移しており、機械部門、ツール部門、加工部門とも増収増益となりました。その結果、売上高は3,469百万円（前期比6.0%増）、営業利益731百万円（前期比4.7%増）となりました。

#### 自動車関連事業

自動車業界におきましては、国内および輸出販売台数とも好調を維持しております。主力の純木製ステアリングハンドルは装着率が増加し、また前年下半期実施の商流変更による取扱い品目の増加等により増収となりました。しかしながら、営業利益につきましては価格調整を行ったことから、前期並となりました。その結果、売上高は4,106百万円（前期比19.5%増）、営業利益26百万円（前期比1.0%減）となりました。

#### その他事業

含浸木材を使用したミロモックル事業は、公共投資の低迷から厳しい環境が続いております。売上高は36百万円（前期比25.9%減）、営業損失は5百万円となりました。

### 2. 次期の見通し

価格競争が年々激化する中、品質向上、原価低減、付加価値向上が大きな課題であります。

猟銃事業におきましては、販売・技術提携先であるブローニング社との共同開発の推進等、製品開発力の強化を最重要課題として取り組み、受注の維持・拡大を図ってまいります。散弾銃の主力製品であ

る上下二連銃の新製品モデルや、ライフル銃の主力製品であるボルトアクションライフルの次期モデルの開発を進めるとともに、グループ一体となった原価低減活動を推進し、事業基盤の強化を図り、猟銃製造業での世界一を目指し努力してまいります。

一方工作機械事業は、販売促進に力を入れるとともに、安定した受注が見込めるツール部門および加工部門の生産能力拡充を軸に、現在の高水準の業績を維持するとともに、将来に向けた新市場の開拓、顧客ニーズに合った製品の開発を進めてまいります。

純木製ステアリングハンドルを主とした自動車関連事業は、引き続き好調に推移するものと予想されますが、価格競争力が前提であることはいうまでもありません。効率的な生産と、材料および手直し等歩留まり向上により競争力を強化するとともに、高収益体質への転換を図ってまいります。また新製品・新工法の研究開発に力を入れ、業容の拡大に努めてまいります。

当社といたしましては、このような景況のもと、資本効率を追求した経営体制の確立とコスト構造の改革を実施し、持株会社としてグループ効率の向上に努力してまいりる所存であります。